

# 都中英研だより

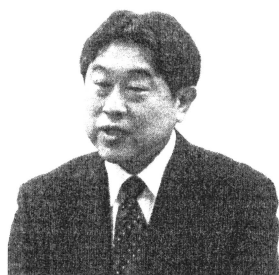
第 72 号

東京都中学校英語教育研究会  
会 長 刀 根 武 史  
(武蔵野市立第五中学校)

## 都中英研と一緒に学びましょう

東京都中学校英語教育研究会

会長 刀根 武史



平成 30 年度東京都中学校英語教育研究会(以下、都中英研とする。)会長を拝命いたしました武蔵野市立第五中学校長の刀根武史です。前、石鍋浩会長を始め本会の歴代会長の皆様の意をつぎ、都中英研のさらなる充実・発展のために努力してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、都中英研は東京都教育委員会研究推進団体の認定を受けた研究会です。会の目的は、中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に英語教育の振興を図ることとしています。特に、本会はこの目的を達成するために、次の 5 つの事業行っています。

- ① 各種研修会の開催  
(研修会、発表会、講演会等)
- ② 調査活動  
(コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等)
- ③ 研究活動  
(英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等)
- ④ 各種英語教育団体との連絡
- ⑤ 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

これら 5 つの事業の中でも 4 の「各種英語教育団体との連携」では平成 29 年度から役員会組織に小中連携担当を設け、東京都小学校英語教育研究会との関係を深めています。今後、そこで得た情報等も会員の皆様にお届けできればと考えているところです。

平成 32 年度に新学習指導要領が全面実施となる小学校では、3 年生から 6 年生までの 4 つの学年で平成 30 年度の 4 月より英語の学習が始まっています。この時期に、小学校、中学校、高等学校が一体感をもって英語教育の改善・充実を図っていくことは、私たちに与えられた大きな使命です。

このような中、都中英研では、教員の授業力を向上させるべくワークショップを企画・開催していますが、毎年多くの先生方に御参加をいただいております。引き続き、これからの英語教育改革を見据えながら、ワークショップの内容をさらに充実・発展させるよう努めてまいります。

都中英研が教育改革の先陣を切れるよう、日々研鑽を積み、前進していく所存です。関係の皆様のお理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに東京都の英語科の先生方にお願ひです。ぜひ、都中英研の各部の一員になって、一緒に学んでいきましょう。そして、これからの日本の英語教育、東京都で英語を学んでいる子供たちのために、大いに力を発揮していきましょう。特に、平成 31 年 11 月 15 日(金)には第 43 回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会が東京で開催されます。ぜひ、多くの東京都の英語科の先生方に御参加をいただきますとともに、大会の準備・運営にもお力をお借りしたく、お願ひ申し上げます。

都中英研のさらなる充実・発展のために努力してまいりますので、これからも皆様の御支援・御協力を賜りますようお願いいたします。

# 東京都中学校英語教育研究会地区幹事会

## ① 地区幹事会の概要

8月22日(水)、武蔵野市立第五中学校で、地区幹事会が開催されました。東京都英語教育研究会では、区市町村を60地区に分け、各地区から部長と幹事を選出しています。この幹事会は、年に1度、8月下旬に各地区の部長・幹事が集まり、次のような内容で行われています。

- (1) 各地区の情報交換を行う。
- (2) 都中英研各部からの連絡や報告を聞き、各地区に伝達すべき内容を確認する。
- (3) 講師を招聘して、英語教育に関する見識を高める講演会に参加する。

今年度も、例年通りの内容となり、講演会には、東京都教育庁指導部国際教育事業担当課長の森晶子先生をお招きして講演をしていただきました。

## ② 講演会の要旨

### 東京都英語村 TOKYO GLOBAL GATEWAY の事業概要について

東京都教育庁指導部国際教育事業担当課長 森晶子

2018年9月6日にオープンした、東京都英語村 TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) とは、どのような施設なのかについて、プロモーション・ムービーの視聴を交えながらお話があった。プロモーション・ムービーなどは、サイトからも閲覧できるので、詳しく知りたい場合はインターネットからの情報を活用するとよい。(以下、講演より抜粋)



#### 1 東京都英語村 TOKYO GLOBAL GATEWAY とは

TOKYO GLOBAL GATEWAY は、江東区青海(ゆりかもめテレコムセンター駅徒歩2分)にあり、小学生から高校生を主な対象とした体験型英語学習施設である。都教委が立案し、企業が協力して設立し、今年9月にオープンした。東京都や都以外の全国の公立私立学校の児童・生徒が対象で、既存の枠組みを超えた体験ができる施設である。英語をコミュニケーション・ツールとして、生活や社会の中で使う場を提供している。

#### 2 TGG の特徴・体験を充実させる仕組み

学校の授業から実社会、世界への足場かけになる体験を創出しており、次のような特徴がある。

- (1) 海外にいるようなリアルな空間である。
- (2) 児童生徒8人のグループに1人 agent と呼ばれる English speaker がつき指導助言する。
- (3) 多彩で、児童生徒のレベルに合った3～5段階のプログラムが用意されている。
- (4) 官民が連携している。海外の教育機関とも連携している。
- (5) 英語教育の有識者の監修を受け、一過性のエンターテイメントではない内容になっている。
- (6) タスクベースで達成感を創出する内容になっており、グループワークなどを利用している。
- (7) 海外のロールモデルと出会える、探求型でオープンエンドな課題設定をしている。
- (8) 学校教育との連携が図れるように、事前事後学習の補助教材を用意しており、エージェントによるフィードバックを実施している。

#### 3 利用しやすさを高める仕組み

学校のニーズに合わせて、語学レベル、内容や利用時間帯を選択できる。英語の授業時間数や総合的な学

習の時間などの一環として利用できる。申し込みは、学校を通じての申し込み（学年単位や希望者 8 名以上のグループ）や個人申し込みにも対応できる。価格も低価格に抑えている。

#### 4 英語指導の改善に向けて

英語指導において、学校での取組と TGG の取組の相乗効果が期待できる。児童生徒には、TGG を利用して世界にはばたくきっかけを見つけてほしい。

#### 研究部報告

##### 第16回研究部ワークショップ

##### 第1回 8月1日(水) 千代田区立九段中等教育学校

- ①「生徒の表現力を伸ばすテストの工夫」……………島田 朋美（荒川区立第四中学校）
- ②「話すこと（やりとり）について」……………高杉 達也（千代田区立九段中等教育学校）
- ③「授業の構成・指導手順（導入・説明～音読）」………深内 明（文京区立第八中学校）

**参加者：100人** いつもにもまして参加者が多く、盛況だった。



##### 第2回 8月8日(水) 豊島区立千登世橋中学校

- ①「次期学習指導要領に向けた授業を考える（2年）」……………太田 裕也（品川区立鈴ヶ森中学校）
- ②「中学校でもできる常活動……………森沢 俊彦（品川区立荏原第五中学校）  
四技能統合型学習の初歩、LSD再考～PDCAを踏まえた指導を目指して～」
- ③「英語の授業で大切にしたい指導」……………水嶋 諒（江東区立第四砂町中学校）

**参加者：55人** 台風が近づいてきていたが、昼休みを短縮して、実施することができた。

##### 第3回 8月20日(月) 品川区立荏原第六中学校

- ①「オーラルイントロダクションで授業を変える！……………三上健二郎（大田区立出雲中学校）  
～オーラルイントロダクションの基本と応用～」
- ②「『中1ギャップ』解消のリタラシー指導から読解へ」……………岡崎 伸一（品川区立荏原第六中学校）
- ③「習ったら何度も使わせよう！～ピクチャーカードを用いたスピーキング活動～」……古川 悟（品川区立荏原第六中学校）

**参加者：69人** 3回参加された先生もいた。3日間で224人の先生方の参加があった。

#### 平成30年度 プロフェクトチーム部研修会

日 時：平成30年7月23日（月） 14時00分～16時30分

会 場：豊島区立明豊中学校

講 師：第一部 小林 博子 指導教諭（豊島区立明豊中学校）  
渡邊 英哲 主任教諭（稲城市立稲城第四中学校）  
第二部 太田 洋 先生 （東京家政大学 教授）

##### 内 容：第一部

PT部員2名が日頃、授業の中で実践していることをPT部の研究テーマ「新学習指導要領に向けての指導法」に沿って発表した。

##### 第二部

今年も講師として東京家政大学 教授 太田洋先生をお招きし、「新学習指導要領に向けての指導法」について講義をしていただいた。「アウトプットが難しいと感じた場合は、インプットをする。」「知識と活用を行ったりきたりする教え方が大切であり、それが言語を学ぶ上で自然である。」「知識を使う場面を設け、それを意識して教える。」「先生やALTがモデルを示すことで、コミュニケーションをとっていく。」など、お話しされた一つ一つが授業改善につながる貴重な内容であった。

夏季休業日の初日にもかかわらず、88名もの方に参加していただいた。2時間30分という短い時間ではあったが、始終、猛暑日と同じような熱気が室内にも感じられるほど、充実した研修会となった。

## 調査部報告

調査部夏期ワークショップ

日時：平成30年8月21日（火）

会場：千代田区立九段中等教育学校

講師：玉川大学文学部 准教授 工藤 洋路 先生

講義：聞くことに関するテストづくり

参加者：34人

内容：8月21日、九段中等教育学校を会場に調査部夏期ワークショップを実施した。参加者は34人。調査部では定員を40人と少人数に設定している。これには調査部なりの理由がある。それは、受講者に所属校で作成した定期テスト問題を持参することをお願いしているからである。各自が持ち寄った問題を共有して、改善のための検討をするには数を絞らざるを得ない。具体的に検討するには規模が小さいほうがよい。今回のように「聞くこと」の問題は、以前と比べ、リスニング問題自体を実施していないというようなことは見られなくなってきていると思うが、教科書指導書などに付いているリスニング問題とCD音源をそのまま使用する傾向が少なからずある。「聞くこと」のワークショップが、今回で2回目となるため、前回からステップアップして、問題の改善案を実際に録音してみるところまでトライすることにした。

午前中の講義は短めにし、講義後すぐに小グループでの協議に移った。各自が持ち寄った問題について、小グループで作問の意図などを共有するとともに、各グループで『どんな力を図るために、このlistening問題があるのか』を確認して、問題を改善する時間とした。特に、どうすればよりオーセンティックなテストに改善できるのか、調査部員のアドバイスのもと活発な意見交換が展開された。午後には、問題の改善案ができたグループごとに、作成したスクリプトをICレコーダーに録音する作業に取りかかった。最後に各グループによる改善問題のプレゼンを行った。録音による発表を行ったグループと、その場で問題を実演して発表したグループがあったが、いずれも、工藤洋路先生（玉川大学准教授）と本多敏幸先生（九段中等教育学校指導教諭）から具体的な助言をいただいた。お2人の指導・助言や調査部員との協議で2学期以降の作問やテストデザインが改善されることを切に願うものである。

今回で6回目になる調査部のワークショップは、自分が作成した問題を持参するという条件があるため、ハードルの高い研修である。それでも初回から毎回参加して下さる受講者と手弁当でご指導して下さった根岸先生、工藤先生のお力添えによって継続できている。また、参加された先生方の感想から、テストデザインである「スペック」をテスト作成前に設定することの大切さを、改めて痛感するワークショップとなった。

## お知らせ

都中英研では、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）で著名な\*Facebook を利用しております。研修会等の最新のお知らせを提供できるばかりか、投稿が可能なので、利用者間相互のコミュニケーションも可能です。ご関心のある方はアカウントを取得して、下記URLにアクセスしてみてください。

<https://www.facebook.com/chueiken.tokyo/> \*Facebookはフェイスブック株式会社の登録商標です。

また、都中英研のホームページもぜひご活用ください。本誌「都中英研だより」や年報である「中英研会報」も閲覧が可能です。ホームページは下記URLにアクセスしてください。

<http://www.chueiken-tokyo.org/>

## 編集後記

「都中英研だより 第72号」をお送りいたします。次期学習指導要領の全面実施に向け、英語教育は大きな改革の時期を迎えています。出版部では、英語教育に関わる様々な情報を発信していくことで、少しでも先生方のお役に立てればと思っております。発行に際し、ご協力をいただいた皆さまに感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

本誌に関するお問い合わせ先 >>>>

都中英研出版部長 今本 由美子（練馬区立大泉西中学校 副校長）  
TEL：03-3921-7101 FAX：03-5387-2292